

厚生労働行政推進調査事業費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究

(23IA2005)

令和5年度 総括研究報告書

研究代表者

一般社団法人 日本看護学校協議会

奥田 三奈

令和5（2023）年5月

研究要旨

厚生労働行政推進調査事業費補助金・地域医療基盤開発推進研究事業 総括研究報告書
看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究（23IA2005）

研究代表者：奥田三奈（一般社団法人 日本看護学校協議会）

研究結果概要

看護基礎教育の充実に大きな影響を与える看護教員の育成は大きな課題であり、量の確保と質の向上という両方の課題から、看護教員の継続教育の重要性が検討されてきたが、看護教員自身の経験段階に応じた継続教育の考え方の整理や体制整備は充分とは言い難い。今回、看護師等養成所（以下、「看護学校」）の看護教員を対象とした研修の受講状況や自己研鑽に関する意識、継続教育に関するニーズ等についての実態把握調査を行うとともに、看護教員の経験や段階に応じた継続教育の充実と推進策への示唆を得ることを目的とする。

2年間の研究の1年目として、令和5年度は以下の調査を行った。

1. 調査A：看護教員の経験段階に応じた研修の検討
2. 調査B：看護教員のキャリア成長・支援に関する実態調査
 - ・「看護学校における専任教員の育成・成長に関する組織的支援に関する調査」
 - ・「看護学校における専任教員の継続教育、成長等に関する課題把握の為の組織診断サーベイ」
3. 調査C：専任教員養成講習会・教務主任養成講習会の実態調査

上記の結果、当協議会が実施している研修会は研修生のニーズに合ったものであることが確認できたが、内容の検討が必要なものもあった。また、毎年一定程度の看護教員の入れ替わりがあり、多くの学校において教員要件を満たさない人を雇用している現状の中で、看護教員を支援する体制は看護学校毎に異なっており全体統一性がないことがわかった。また、組織サーベイによる EX スコアは 65.4 であり、サーベイ運営会社の蓄積データによる一般企業の平均 EX スコア (69.4) と比較して 4.0 低く、役職が上にあるもの・年齢が高い教員は各領域において、日々の体験が良いことがわかった。反対に、年齢が低く経験年数が低い教員の日々の体験は良くないことについて、改善の必要性に関する共通認識を形成する必要がある。

詳細は分担研究報告書に譲る。

研究分担者氏名・所属研究機関

水方 智子	一般社団法人日本看護学校協議会	会長（調査A・C）
水澤 晴代	一般社団法人日本看護学校協議会	副会長（調査A）
石橋 桂子	一般社団法人日本看護学校協議会	常任理事（調査A）
百瀬栄美子	一般社団法人日本看護学校協議会	常任理事（調査B）
戸田 悦子	一般社団法人日本看護学校協議会	副会長（調査C）

研究協力者氏名・所属研究機関

上間ゆき子	一般社団法人日本看護学校協議会	事務局（調査A）
時本 圭子	一般社団法人日本看護学校協議会	事務局（調査A）
濱田眞由美	一般社団法人日本看護学校協議会	理事（調査C）
大嶋 暁美	一般社団法人日本看護学校協議会	理事（調査C）
山下久美子	一般社団法人日本看護学校協議会	理事（調査C）

I. 調査A：看護教員の経験段階に応じた研修の検討

A：研究目的

看護師等養成所の看護教員の人員確保と質向上の課題を踏まえ、当協議会が実施している看護教員を対象とした教育研修の受講状況、研鑽や継続教育に関するニーズ等を把握し、経験等の段階に応じた継続教育の体制を再整備することを目的とする。

B：研究方法

新任期教員対象研修会及び中堅期教員対象研修会は、研修参加者のうち同意の得られた人から受講生アンケート（Google フォームでの無記名式選択回答式）の提供を受け、その集計と結果を検討した。教務主任養成講習会については、日本看護学校協議会内の教務主任養成講習会運営組織、東京慈恵会内の教務主任養成講習会運営組織に、本調査の趣旨・調査概要等を説明し、受講者評価資料の提供を依頼し、同意の下で提供を受け検討した。

C：研究結果・考察

新任期看護教員研修会は、授業案作成を行うことの研修生の満足度は高いが、授業評価の方法とプロセスの理解が低い結果であった。また、学生の反応を捉えた分析・理解や評価についての理解が十分でない傾向があった。中堅期教員対象研修会は、勤務校で自分が立案した課題解決に向けた取組みを実施し、組織課題として取り上げたものは「学校の教職員のチーム力」約8割強であり、「リーダー行動計画の継続意思」を約80%の研修生が示していた。教務主任養成講習会は、当協議会主催の教務主任養成講習会は第1期、第2期共に受講者による評価は高いが、屋根瓦方式を導入した「リーダー論」「リーダー論演習」の受講者評価が若干低い。

D：結論

当協議会が実施している研修会・講習会は、研修生のニーズに応じたものであったが、新任期教員対象研修会及び教務主任養成講習会は、内容の検討が必要である。

E：研究発表

令和5年度は該当なし

F：知的財産権の出願・登録状況

なし

II. 調査 B：看護教員のキャリア成長・支援に関する実態調査

B-1：「看護学校における専任教員の育成・成長に関する組織的支援に関する調査」 B-2：「看護教員の継続教育、成長等に関する課題把握のための組織診断サーベイ」から構成する。

A：研究目的

B-1 では、看護学校の専任教員の離着任の状況、専任教員の育成・定着およびキャリア向上を目指して展開されているファカルティ・ディベロップメント等の実情と校外資源の活用状況等を把握し、B-2 では看護学校の専任教員の継続的キャリア支援に関連したニーズ・課題等を整理し、看護学校の組織の状態を把握し課題等を整理することを目的とする。

B：研究方法

B-1 では、一般社団法人日本看護学校協議会会員校（448 校）の管理者に対して Google フォームでの無記名選択回答式アンケートを実施し、B-2 では、(株)HR ブレインが運営するクラウドサービスである組織診断サーベイ「EX サーベイ」の一部をカスタマイズして活用した。

C：研究結果・考察

B-1 より、回答校の 66.5%で 2023 年度に専任教員の着任があり、着任数は 1～2 人（計 53.7%）が多かった。入職時面接（69.8 %）、入職時オリエンテーション（91.3%）は多く実施されているが、一定の担当者は決まっていない学校もある（15.6%）ことがわかった。「看護教員のキャリアラダー」を教員に提示している学校は 57.0%で、提示しているキャリアラダーの種類は、自校作成のもの（47.8 %）、ついで日本看護学校協議会作成の『看護教員のラダー』（21.7 %）であるが、それ以外もあり、全体統一性は確認できなかった。

B-2 より、本調査の EX スコアは 65.4 であり、サーベイ運営会社の蓄積データによる一般企業の平均 EX スコア（69.4）と比較して 4.0 低かった。役職が上にあるものや年齢の高いものは、多くの領域で「期待」と「実感」が高く、日々の体験が良いことがわかった。反対に、年齢が低い教員の日々の体験は良くないことについて、改善の必要性に関する共通認識を形成する必要があることがわかった。

D：結論

教務主任や管理者は、体験がよく事にやりがいを感じつつも、孤立感や疲弊感も垣間見れるため、教務主任以後の役職者を対象とした研修会や交流会などの必要性が示唆された。

E：研究発表

令和 5 年度は該当なし

F：知的財産権の出願・登録状況

なし

III. 調査 C：専任教員養成講習会・教務主任養成講習会の実態調査

A：研究目的

専任教員養成講習会および教務主任養成講習会の実施状況に関する諸情報および教育内容・カリキュラム等の資料を収集・整理、検討に有用な資料を作成し、受講率を高める工夫、専任教員

のキャリア向上に役立つ教育内容、受講しやすく効率的な運営方法等の検討に寄与する。

B：研究方法

平成 30 年度から令和 5 年度の 6 年間に専任教員養成講習会・教務主任養成講習会を実施した都道府県の看護協会とその他の団体。

C：研究結果・考察

専任教員養成講習会の受講率は 50.9～74.3%であったが、平成 30～令和 2 年度に比べ令和 3～5 年度は低かった。修了率は、都道府県による講習会は 97.4～99.5%と高く、都道府県に準ずる団体による講習会は 70.3～80.6%であった。教務主任養成講習会は、愛知県が開催した平成 30 年度の講習会の受講率は 85.0%と比較的高かったが、東京慈恵会の講習会の受講率は 33.3～79.2%、日本看護学校協議会の講習会の受講率は 47.5～75.0 であり、毎年、受講枠に一定の空きがあることが確認できた。修了率は 83.3～100.0%と高かった。

D：結論

専任教員養成講習会においては、e ラーニングを設定することにより受講率が上昇するとは限らないこと、都道府県が実施する講習会への受講率は低めであるが修了率は高いこと、都道府県に準ずる団体である通信制の大学が開催する講習会の受講率は高いが修了率は低いことが分かった。教務主任養成講習会においては、都道府県に準ずる団体によって開催されており、受講希望者の居住地域や学校所在都道府県の近県での開催や受講しやすい開催期間を設ける、分散開催の導入、e ラーニングの活用等、多様な工夫が求められる

E：研究発表

令和 5 年度は該当なし

F：知的財産権の出願・登録状況

なし